



卒業証書授与式にあたって

校長 高田 篤志

3月17日に6年生55名が本校を巣立っていきました。

インフルエンザB型が流行する中、当日は全員揃い、一人一人に卒業証書を渡すことができたことは、何よりもの喜びとなりました。また、3月12日に谷崎 浩平様より寄贈いただいた新しい校旗のもとで卒業生を送ることができたことも重ねての喜びとなりました。

卒業証書授与式で伝えたこと（抜粋）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。しけ絹でつくったコサージュも素敵ですね。皆さんは、私が校長として出会った初めての6年生でした。この一年間、最高学年として、学校生活の多くの場面でリーダーの役割を果たし、本校の重点目標である「みんなで笑顔を生み出すチームJ」が目指す姿を、率先して行動で示してくれる頼もしい皆さんでした。

特に、毎朝続けた朝活動。元気な挨拶や進んで行う清掃活動のおかげで、全校のみんなが気持ちよく一日をスタートさせることができました。運動会では、下級生に優しく接し、応援の仕方等、丁寧に教えたり、係の仕事をてきぱきと進めたりできました。競技の結果ばかりではなく、目標に向かって一生懸命にがんばることのすばらしさを見ているみんなに伝えてくれました。能登での宿泊学習では、「大丈夫？」と助け合ったり、「うまい！」とほめ合ったりしながら、仲よく活動ができました。

互いを認め合い、高め合える皆さんは、学習面でもよき手本となりました。総合的な学習の時間では、城端の未来に関わりたいと一人一人が行動を起こし、「未来シンポジウム」を開催して、これからの城端の在り方を考えました。学習発表会の劇は、学校での発表のみにとどまらず、じょうはな座でも再演されるほどの大作になりました。南砺市誕生20周年を記念して行われた教育フェスティバルでも実践発表を行い、大好評でした。あらゆる場面で、笑顔をたくさん生み出してくれた皆さん、ありがとう。

4月からは、中学生です。そんな皆さんに、私から一つだけ大切にしてほしい言葉を贈ります。それは「今に感謝をして生きる」という言葉です。例えば、おいしいご飯を毎日いただけるおかげで生きていられます。家族がいるおかげでここまで成長できました。これから出会う先生方、教科書があるおかげで勉強ができます。それらは、当たり前ではありません。世界には、戦争や災害で、今日生きていられるかどうか分からない人がたくさんいます。当たり前と思うことにこそ、感謝をしてください。苦しいこと、辛いことは、自分を成長させてくれるチャンスです。諦めず、投げ出さず、向き合ってみてください。どうしても困ったときは、周りの人に頼ってください。感謝の気持ちをもっていれば、たくさんの方が助けてくれるはずです。感謝の気持ちをもっていれば、結果が変わってくるでしょう。皆さんのことをずっと応援しています。

